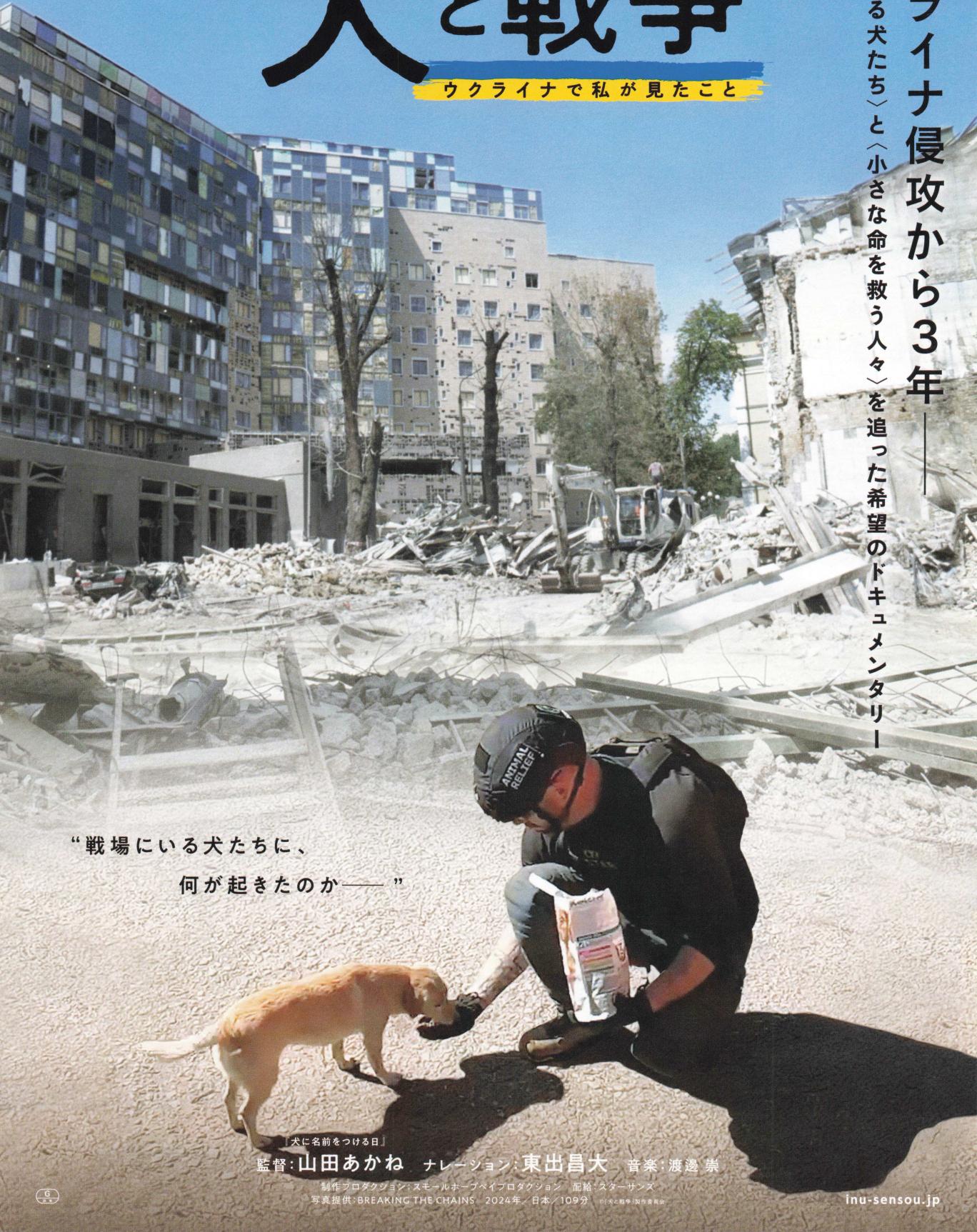


ウクライナ侵攻から3年

〈戦場にいる犬たち〉と〈小さな命を救う人々〉を追った希望のドキュメンタリー

犬と戦争

ウクライナで私が見たこと



“戦場にいる犬たちに、
何が起きたのか——”

『犬に名前をつける日』

監督: 山田あかね ナレーション: 東出昌大 音楽: 渡邊 崇

制作プロダクション: スモールホーププロダクション 配給: タマサンズ

写真提供: BREAKING THE CHAINS 2024年 / 日本 / 109分

G

inu-sensou.jp

”犬の向こう側には、必ず人間がいる

山田あかね監督



侵攻直後のウクライナへ駆けつけた日本人監督が見た
もう一つの闘いの記録がここにある。

2022年2月から始まったロシアによるウクライナ侵攻。戦争による惨劇が日々報道される中、ドキュメンタリー映像作家の山田あかねは、その現実を自分の目で確かめるため、侵攻から約1ヶ月後にウクライナへと向かった。山田監督はこれまでに、小林聰美主演の『犬に名前をつける日』(2015/監督)や『犬部!』(2021/脚本)など数々の作品で犬や猫の命をテーマに、福島や能登などの被災地への取材を重ねてきた。そんな彼女だからこそ、「戦場にいる犬たちの現実を伝えなければ」という覚悟のもと戦禍のウクライナでカメラを回す。そして、一つの動画をきっかけに、犬をめぐる“ある事件”を知ることになる。「戦場にいる犬たちに、何が起きたのか?」—— その真相を探るために、ウクライナへ3年にわたり通うことになった。ナレーションは俳優の東出昌大が務める。自身も保護犬と暮らし、そして獵師として日々命の現場に立つ東出の言葉は、私たちに現実を突きつける。



山田監督は、「犬は人間の最も近くにいる動物。彼らを通して世界を見ると、人間の姿が浮き彫りになる。“犬の向こう側”には必ず人間がいます」と語る。本作では、戦場で生きる犬たちの様子をはじめ、その小さな命を救おうと世界中から駆け付けた人々の奮闘する姿が映し出される。犬たちを取材する中で見えてきたのは、戦争に翻弄される人々の姿、そして様々な立場から語られる平和への願いだった。

これは、戦禍のウクライナで《戦うこと》ではなく、
《救うこと》を選んだ人々による希望の物語である。



犬と戦争

ウクライナで私が見たこと

監督:プロデューサー:山田あかね テレショ:東出昌大 音楽:渡邊崇
製作:四宮隆史 プロデューサー:遠田孝一・長井龍 撮影:谷茂岡穂 編集:前篤健治 サウンドエディター:丹愛 バンドカラ演奏・ヴォーカル:ナターシャ・グシー
アソシエイトプロデューサー:冴美良 構成協力:松谷光絵 アシスタントプロデューサー:泉野真依子 宣伝:加勢恵理子
制作プロダクション:スマールホーブイプロダクション 配給:スター・サンズ 製作:「犬と戦争 ウクライナで私が見たこと」製作委員会
2024年/日本/109分/5.1ch ◎犬と戦争 製作委員会
inu-sensou.jp × @inu_sensou G

2/21(金)~当館にて上映決定!

キネカ大森

03-3762-6000

https://t.co/cmeko_omot